

CASBEE-新築(簡易版)2008年版
(仮称)京都市産業技術研究所・KRP9号館複合棟

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2008年

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.1.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.8
Q1 室内環境			0.35			3.3
1 音環境		2.8	0.15	-	-	2.8
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	
1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		2.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境		3.1	0.35	-	-	3.1
2.1 室温制御		3.3	0.50	-	-	
1 室温設定		3.0	0.38	3.0	-	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	-	
4 ゾーン別制御性	インテリア/ペリメータでゾーン分けをし、ゾーン毎に冷暖切替が可能	4.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境		3.7	0.25	-	-	3.7
3.1 昼光利用		3.8	0.30	-	-	
1 昼光率		3.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備	登り庭による共用部への昼光利用	5.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策		4.0	0.30	-	-	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御	ブラインドに底を組み合わせてグレアを制御	4.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度		1.0	0.15	-	-	
1 照度		1.0	1.00	3.0	-	
2 照度均斉度		-	-	-	-	
3.4 照明制御	1作業単位で制御可能かつリモコン等で調整可能	5.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境		3.7	0.25	-	-	3.7
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	建築基準法規制対象外となる建築材料をはほぼ全面的に採用	4.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		3.0	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-	
4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	ビル全体として利用できる完全に区画された喫煙室の設置	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.8
1 機能性		4.3	0.40	-	-	4.3
1.1 機能性・使いやすさ		4.0	0.49	-	-	
1 広さ・収納性	執務スペースは10㎡/1人を想定	4.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応	コンセント容量50VA/㎡、複数の通信事業者用スペースあり	4.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たしている	4.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		4.6	0.35	-	-	
1 広さ感・景観	事務室の天井高は2700mmで、窓を設置している	4.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース	喫煙室や屋外テラスなどのリフレッシュスペースと自動販売機を	5.0	0.33	-	-	
3 内装計画	コンセプトと機能を想定し内装・照明計画を行い、インテリアパス	5.0	0.33	3.0	-	
1.3 維持管理		4.5	0.16	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	⑤の風除室以外は評価基準を取り組んでいる	5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	評価する取り組みが7以上である	4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.2	0.31	-	-	3.2
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.6	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	外装材の押出成型セメント板による	5.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外露出ダクトにステンレス製を採用している。	4.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	2種以上の主用途に耐用年数グレードC以上の配管材を使用	4.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	

2.3 適切な更新				-	-	-	-
2.4 信頼性			3.2	0.19	-	-	
1	空調・換気設備	非常用発電機の設置、重要負荷の電源2重化	3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		4.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.8	0.29	-	-	3.8
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-	
1	階高のゆとり	階高は最低4000mmを見込んでいる	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ率は基準階で約0.2となった	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		積載荷重3500以上を見込んでいる	4.0	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性	将来の容量増加等に対応可能な予備スペースを見込んだ配置計	3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		4.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.35	-	-	4.2
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		周辺からの眺望や町並みに調和し、緑を設置。町の活性化に貢	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30	-	-	4.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある竹を外構に配し、ピロティを設置。登り庭による開放	5.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	舗装は透水性舗装材による	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.6
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.16	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用			4.0	0.24	-	-	4.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	自然換気を容易に行うことのできる窓廻りとする	5.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		ERR=24.1	4.0	0.36	-	-	4.0
4 効率的運用			3.0	0.24	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水	節水型便器や自動水栓、女子トイレには擬音装置を採用。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水再利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.0	0.63	-	-	4.0
2.1	材料使用量の削減	基礎、基礎梁、基礎スラブに高炉セメントを使用 タイルカーペット、ビニルタイル、ビニルシートにリサイクル材を適 躯体+軽鉄+仕上材を使用し解体、再利用が可能。OAフロアを	3.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		4.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用		5.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用		F☆☆☆☆の建築材料を4種以上使用している	5.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	断熱材		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1	大気汚染防止	駐輪場、駐車場、駐車場導入路の配慮をしている	3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		3.0	0.50	-	-	
3.2 風害、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	